

ムットちゃんのお話をしたいと思います。

自宅出産で生を受けたムットちゃんは、生後2日目に郡病院で
先天的に肛門がふさがっている“鎖肛”と診断され、
そのままオ・フレンズ小児病院（LFHC）に救急車で搬送されてきました。
即刻要手術の状態でしたが、新生児の手術には専門性が必要で、
首都ピエンチャンへ再転送しなければなりませんでした。
ところが、ご両親は「行かない」と言い出したのです。
それは、経済的に負担ができないという理由でした。

院内で提供する治療（手術を含む）、検査、ケアはすべて無料で行っています。
しかし、専門性の高いものや新生児の先天性疾患などは、
首都ピエンチャンの専門病院へ転送しなければなりません。
その場合は、交通費や他院の治療費などが自己負担になってしまいます。
ムットちゃんは手術で回復する見込みが大きい、とご両親に説明し説得しても、
やはりどう転んでも資金繰りが難しい。
手術と滞在費などで約7～8万円の費用です。
LFHCでは異例の緊急検討会を行い、初めての院外手術サポートを決定しました。
無事に手術を終え、5日後にLFHCに戻ったご両親の顔には笑顔が！
ムットちゃんはその後もすくすくと成長し、現在2歳になりました。

こうしたケースは、他の疾患でも月に数件はあります。
そして、院外でかかる医療関連費をサポートするために作ったのが
“患者さんケア”というサポート枠です。

